平成二十二年度秋号

曹青かわら版

平成22年10月7日
山口県曹洞宗青年会
会長 大野 泰生

「大寧寺授戒会」報告

十一教区　自住寺副住　大庭俊洞

去る五月八日、十一教区長門市湯本の大寧寺さまにおきまして、開創六百年記念の慶祝大法要が厳修され、引き続き報恩大授戒会が修行されました。

授戒会は大本山總持寺前貫主であり、現在は福井県御誕生寺住職である板橋興宗禅師さまを戒師にお迎えし、五月九日から十三日までの五日間行われました。

大寧寺は大本山總持寺の御直末であり、末寺寺院は五十ケ寺、孫末寺寺院を含めると約三百ケ寺あります。その御寺院さま、そして県の宗務所をはじめ、県内寺院の皆さまのご協力で、百七十三名の方が正戒として授戒につかれました。また約二百名のご寺院さま・青年会員の皆さんが随喜して下さいました。

私自身も法要事務局を務めさせて頂きましたが、多くの方々のお力添えを頂き深く感謝しております。

私は大寧寺の末寺で修行しているご縁で、二年ほど前に大寧寺の方丈さまから「法要事務局をしてみないか」と声をかけて頂きました。授戒経験がほとんど無い私が、これほど大規模な行事で大役がつとまるはずがないと迷いましたが、師匠や末寺の方丈さま、大寧寺を常日頃支えて下さっている御寺院さま方の励ましを受け、その任に当たらせて頂くことになりました。

初めてのことづくしで迷いながらも多くの経験をさせて頂きました。趣意書・法要の案内・協力依頼文の作成発送、お役の焼香師・ご寺院さまへの拝請状・法要随喜依頼状・配役依頼状の作成発送、正戒・因戒・亡戒・寺族得度・一般得度・食供養諷経の取りまとめ…等々。

→壱岐歎佛。異国情緒あふれる法要でした。

実行委員会・法要会議等の回が進み、日が近づくにつれ段々と緊張して参りました。直前では「全てが円滑に、滞り無く進行していくだろうか…」と不安で一杯でした。しかし、いざ始まるとどんなときでもお互いに助け合いながら、冷静に対処され、予め打ち合わせてあったかのように進んでいく様子に驚きました。県内のご寺院さまや青年会の仲間が、何度も授戒会を修行されている力をここで発揮して下さっている、初めての方でも一生懸命に修行して下さっているからだ、ということが分かりました。

私は事務局で受付など裏方が主でしたので、戒弟の皆さんに直接触れあう機会がなく当初実感がありませんでしたが、最終日板橋禅師さまが問答の中で「今までやった授戒会の中でも、こんなに素晴らしい授戒会は無かった。アリガトサン、アリガトサン。」とおっしゃられた言葉で一気に心が満たされました。そして、禅師さまをお見送りする戒弟さんの素晴らしい笑顔を見て、戒弟の皆さんの力になれたんだと深く深く感じました。

自分にとっては初めての経験でありましたが、このようなご縁に恵まれたことに感謝し、これからの修行に生かして一層の精進をして参りたいと思います。

多くの方々のご支援・ご協力をいただき、大寧寺開創六百年慶祝記念法要並びに大授戒会が無事円成致しました。この誌面をお借りし、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。合掌

「典座寮に随喜して」

八教区　耕雲寺　伊藤暢道

チリンチリンチリンッ…最終日の振鈴が心地よく聞こえる。んっ、しまった。最後の最後で寝過ごしてしまったのだ。戒会中の典座寮は毎日振鈴1時間前に起床し小食の準備をはじめていた。5日間を通して早朝から夜遅くまで、腰掛けるのは食事の時くらいだったように思う。食事をつくる、盛りつける、配膳し洗い物をする繰り返しで、時には配膳が遅れたり数が合わなかったりしたこともあった。目が回るほど忙しい典座寮であったが、一日一日が法の悦びを得るような充実した日々だった。

侍真・知殿寮にて。
他の寮舎の方々もお疲れさまでした。

昼夜交替で切り込みや洗い物のお手伝いをいただいた多くのご婦人方、忙しいなか合間を縫って洗い物のお手伝いをいただいた随喜のお寺さま方に助けられ台所に居ながらその温もりを感じた。

典座老師を中心に寮員皆が心を合わせ、心をこめてそれぞれ与えられた仕事を成し遂げたように思う。私は、この度の授戒会で大きな経験と少しの成長をさせていただいたような気がする。

戒弟飯台の様子。今回のお授戒は「食とぬくもり」がテーマでした。

■「全国曹洞宗青年会九州管区電話相談員養成基礎研修会」報告■

八教区　福王寺　小室公寛

六月二十一日と二十二日の二日間に掛けて全曹青九州管区電話相談員養成基礎研修会がおこなわれました。

この基礎研修会の目的は、二日間の研修を通して「聴くこと」を中心に、(一)全曹青の電話相談事業とは？(二)「聴く」ということを体験しよう、(三)なぜ電話相談なのかを考えよう、という以上の内容の理解と技術の習得を目指します。

一日目は、福岡産業保健推進センター専門相談員の渡邊登美子氏による講演会があり、メンタルヘルスの現状と具体的対応について社会の現状を理解し、実践的な対応を学ぶことを話されました。次に、「聴く(傾聴)」ということを体験するため他己紹介をしました。まず二人一組に分かれそれぞれ五分ずつ相手の話を聴きます。その時にメモは取らないようにして、名前や経歴などの情報を聴き出します。そして全体の前で相手を紹介し、紹介された人は内容について感想を述べました。この実習によって各々の聴き方、相談の受け方を振り返り自己理解を深めます。

二日目は傾聴ロールプレイをおこないました。ロールプレイとは「役割を演じる」研修方法です。三人一組になり、「相談者」「受け手」「観察者」を決めて、相談者はシナリオ設定に合わせて話します。受け手は相談者の話に耳を傾け、相談者を理解するようにします。観察者は相談の様子を客観的に観察します。このロールプレイを一回目は面談、二回目は電話相談形式で行い、終了後はお互いに感想を述べ振り返ります。そして最後に、電話相談の特徴や長所、短所を出し合いながら、なぜ電話相談なのかを話し合いました。これで、二日間の研修が終わりました。

この研修を受けて、宗侶が相談者に対して観世音菩薩のように、相談者の声に耳を傾け、声にならない苦悩も観じながら、大いなる慈悲心をもって相談者と向き合うことができれば、相談者にとって大きな助けとなる、その「菩薩行としての傾聴」について学ぶことができました。

■「広島原爆平和公園慰霊法要」報告■

副会長　清成良知

去る七月八日(木)広島原爆平和公園において慰霊法要が開催されました。鳥取曹青が中心となり中国地方各曹青・四国曹青合同で約五十名参加のもと、まず平和記念資料館に集合し被爆された方のご講演を頂きました。スライドを見ながらお話しをして頂きましたが、当時の様子が生々しく伝わって参りました。実際に体験された方のお話しは、心に直接語りかけられるようなそんな思いが致しました。

講義の後には資料館を拝観させて頂き、平和記念公園内の慰霊碑前にて慰

霊法要を厳修致しました。そして法要の後、原爆投下によって亡くなられた方々への哀悼の想いと、さらなる平和への祈りを込め会員が折った千羽鶴を御霊前に奉納致しました。

語りべが高齢となりこの原爆の悲惨さを次の世代にどのように繋げていくか…二度と起こさない為に私達にものし掛かった課題であり、平和というものを考えさせて頂いた有意義な一日でありました。

●「徒弟研修会」を終えて●

十一教区　願成寺副住　南　健司

去る七月二十二～二十三日に一泊二日の日程で徒弟研修会が開催されました。例年の徒弟研修会は、昨年の沖縄に代表されるように県外での開催が一般的になっていましたが、今年度は一人でも多くの徒弟の皆さん並びに青年会会員に参加してもらい徒弟研修会の充実を図ろうという目的で、県内の萩市・長門市で開催する運びとなりました。

一日目は九教区・海潮寺様を会場にさせて頂き、開講式・オリエンテーション・坐禅・法話・昼食・写経等、徒弟の皆さんと青年会会員が触れ合う機会を多く創出しながら仏教を学んで頂くことを主とし、夜は宿泊地・萩本陣にて懇親会を行いました。

その中でも、海潮寺の方丈様には、徒弟の皆さんの目線に立たれた非常に分かりやすいお話、並びに坐禅を親しみやすいものにするイス坐禅のお話等、非常に勉強になるご法話を頂きました。また、懇親会後には、九教区・広厳寺様の格別なるご厚意で花火を楽しませて頂き、大変思い出深い夜となりました。

親子で萩焼の絵付に挑戦。
いい作品ができたでしょうか？

二日目には、松陰神社、萩焼会館、青海島メモリアルパス散策、金子みすず記念館等、ビーエス観光さんの案内のもと萩・長門観光を楽しみました。特に、萩焼会館では、萩焼に筆で絵や字を書く萩焼絵付体験をさせて頂き、参加者全員が自分だけの本格的な作品づくりに没頭しました。そして、その際絵付をした作品は後日御届けを頂き、今回の徒弟研修会の大切な思い出の品となりました。

最後になりましたが、今回お忙しい日程のなか御参加を頂いた皆様、研修会の会場を心よくお引き受け頂いた海潮寺様、並びに多大なるご協力を頂きました広厳寺様・亨徳寺様をはじめとする九教区の皆様方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

以下、参加者の感想文（抜粋）です。

「今回の徒弟研修は、萩や長門を観光し、しかも、私の家の寺の、となりのホテルに、友達と泊まれたので、とてもうれしかったです。暑い中、いろいろ準備していただいて、ありがとうございました。（三好伶菜ちゃん）」「ぼくはこれが一日目で一番心に残ったことだと思います。なぜかというと、みんなでお寺を見て最後に山門に上がってかねを一人一回ずつならしました。ならしたかねにさわって

みるとすごいしんどうでした。（三好一充くん）」「最初に坐禅をして少しいたかったです。家では座布団を使っているけど坐蒲はちょっと高くてすべりそうになりました。（山本昌輝くん）」

「次にぼくがすごく楽しみにしていた温泉に行きました。種類がいっぱいあったので三しゅうも回ってしまいました。一番楽しかったのは『しとしとの間』です。水じょう気みたいな物がふきでてきて、あつかったけど、すごく楽しかったです。（木村幸誠くん）」「そとでそうめんながしをしました。ぼくははじめてそうめんながしをしました。そうめんのめんだけじゃなくトマトやうずらのたまごがながれてきておもしろかったです。」（木村悠人くん）」

バスの中。ねえねえ何見てんのー？

「２日目は、金子みすずさんのクイズがおもしろかったです。家に全問せいかいの手紙がとどきました。青海島は海がきれいでした。私はプーさんとくまの人形をもらいました。私のつくえの上に置いてあります。楽しかったので来年もできたら参加したいです。とっても楽しかったです！（石井祐衣ちゃん）」

山陽小野田市災害復旧活動報告

九教区　梅岳寺徒弟　末武正憲

去る七月二十六日から三十日にかけて山陽小野田市にて災害復旧活動を行い、のべ十五人が参加しました。

七月十日から十六日に降った大雨の影響で厚狭川右岸の厚狭駅周辺が一メートル程浸水した模様。山陽小野田市社会福祉協議会の山陽福祉会館にボランティアセンターにて受付を済ませ、そこで待機してマッチングを行うという手順でした。

私は二十九、三十日に参加しましたのでその時の様子を報告します。二十九日の参加者は清木事務局長と私の二人でした。建物の裏の駐車場にて用具を揃えて近所のお宅に行きました。作業内容は土間と床下に溜まった土砂の撤去。土嚢袋

に土砂を詰めて最寄りの災害廃棄物集積所まで運搬し、約一時間で終了しました。次は車で川沿いのお宅へ。家の隣に橋が掛かっていましたが、現在の川面から五メートルはあろうかという欄干まで水位が達したとのことに驚きを禁じ得ませんでした。ここでの作業は庭に溜まった土木の撤去でした。土砂もさることながら、土砂にまみれた草木が散乱していたので、これを撤去すべくチェーンソーを借りようとしたところ、準備が無く、仮に使って怪我をされても保険が下りないとのことでした。仕方なく人手で作業してその日は終了しました。

三十日は宗務所の吉川所長と大野

会長が参加されました。場所は商店街の電気屋でした。テーブルの上に置いてある大型液晶テレビの半分まで水の跡が残っており、なんともやるせない気持ちでした。ここでも床下の土砂の撤去を行い、次のお宅では浸水によって不使用になった物品の搬出を行いました。

昼になりボランティアセンターに戻って待機していると要望が無く、そのままセンターは当初の予定通り閉鎖。活動を終了しました。

活動中有難かったのは、救護係の方々が時折訪ねてきて、飲物やおしぼりを差し入れてくれること。昨年の防府の時は現場のお宅の方に差し入れを頂くことはあっても、今回はそういったことはありませんでした。お互いに気を使わせまいとセンターが配慮したのだと思います。昨年と比べて、こうした些細な改善が何より嬉しく感じます。

この先も大雨による水害が起こることと思います。その時、明日は我が身だと思えることが大事なのではないでしょうか。

《義捐金報告》

この度は災害ボランティア活動にご協力頂き誠にありがとうございました。県内各地より、総額４８１，０４６円もの義捐金をいただきました。

ボランティア活動の経費を引きました４２６，０４６円を山陽小野田市災害対策本部へ送金させて頂きました。

なお、義捐の受付は終了させて頂きました。

※作業終了後7教区の皆さんの心づくしでお昼ご飯をご用意頂きました。心より御礼申し上げます。

◇「有馬実成師没後十年　追悼講演会」後援◇

去る八月二十一日、九教区西来寺様において、「有馬実成師没後十年　追悼講演会」が、実行委員会の主催で開催されました。講師には大菅俊幸さんが、「泥の菩薩～NGO（NPO）に生きた仏教者、有馬実成師の生涯から共に生き共に学びあう地域づくりを考える～」というタイトルで講演されました。引き続き別会場では再び大菅さんの講演会（明木図書館主催）、さらに明木の伝説を題材にした創作紙芝居や李陽雨さん（下関在住の歌手）らのコンサート、交流会もあり、参加した多くの方々が有馬師を偲び、平和について語り合いました。

●「緑蔭禅のつどい」報告●

二教区　安養寺徒弟　渡辺永聖

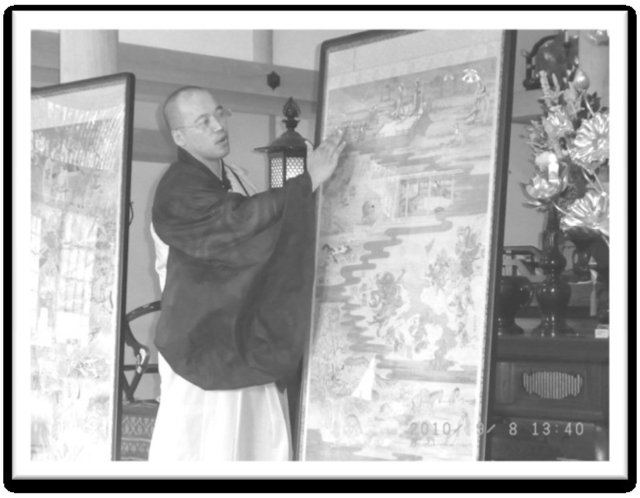
九月八日（水）岩国市大応寺様を会場として、開催されました。籌勝院ご住職藤川俊道老師にご法話を賜りました。午前中は他に、坐禅指導と写経（延命十句観音経と舎利礼文）を行いました。

坐禅、法話だけでなく、精進料理を楽しみにくる方も多いようです。

午後は特別企画の「絵解き」が真言宗・

般若寺の福島弘昭ご住職により行われました。般若寺寺宝の二幅の絵画、六道輪廻図の解説です。片方は天界、人間界などの五道で、もう片方は全面の地獄絵図というものでした。七十五分にわたってご解説いただきました。休憩の後は三十五分間、しっかり坐禅をしていただきました。午前中の坐禅指導によって速やかに始めることができました。

多くの方のご参加、ご協力で無事に緑蔭禅事務局としての役目を果たせました。ありがとうございました。



絵解きをしながらユーモアも交えた、わかりやすいご法話でした。

以下、参加者の感想です。

「絵解きの御講話が大変興味深く勉強になりました。お料理大変美味しうございました。感謝。（二十代男性　初回）」

「何回も参加させていただきましても心が安まります。法話もやさしく理解出来、坐禅のむつかしさ再認識しました。筆を持つ機会がないので写経は楽しく思いました。絵解きのお話すばらしく心にのこりました。三十八才とは驚きました。大変お世話になりありがとうございました。（七十代女性　毎年参加）」

◇「現代名僧墨蹟展」協力報告◇

五教区　安禅寺　村上　邦明

去る九月十五日から二十日まで昨年に引き続き、山口市井筒屋にて全国・県青少年教化協議会主催「現代名僧墨蹟展」が、書画との出会いを通してみ仏の教えが広がることを願い、開催されました。

会場内には各宗派管長・大本山貫主をはじめとする高僧諸師、茶道など伝統文化を代表する文化人等の自筆の書画展示、頒布されました。また開催期間中は各宗派日替わりで辻説法も行われ、墨蹟展に訪れた方々も熱心に説法を聴講されていました。

墨蹟展で頒布された収益は国内外の子供、若者の教育・福祉活動に充てられるとのことです。

青年会会員も協力させていただき、たくさんの書画に触れ、心の安らぎを得させていただきました。

前日準備の様子。箱書きのチェック。

●タイ山岳民族教育支援
募金クラフト販売状況●

五月三十日　光善寺　清風講座
クラフト売上　９，２５０円

六月二十一日　県寺族会
クラフト売上　２３，６２００円
募金　１，１２７円
六月二十五、六日　県梅花大会
クラフト売上　２４６，３００円
募金　２１１，９４２円
七月六日　三教区特派布教
クラフト売上　１，０００円
募金　１６，８１４円
七月九日　九教区特派布教
クラフト売上　６，４００円

今後ともご協力よろしくお願いします。クラフトはご寺院様の諸行事にぜひご利用ください。ご一報くだされば、会員が販売に参ります。また贈答品などにもご利用いただけます。

【連絡先】（担当）慶欣寺　野坂　正道
電話０９０-７５９２-６２９６

【今後の行事予定等】

中曹青山口大会
十一月十一、十二日(木、金)
山口市　県総合保健会館

戒弟のつどい
十一月三十日（火）
山口市　法明院

月例研修・徒弟研修「托鉢」
十二月六日(月)　下関市
十二月十三日(月)　周南市

年末懇親会
十二月二十日(月)
山口市　未定

シャンティ学生寮訪問視察

一月末か二月初め（未定）

寺庭婦人セミナー

涅槃会坐禅会

二月二十一日（月）

周南市　常安寺

＊詳細の決まりましたものは改めてご案内させて頂きます。日程は都合により変更になる場合があります。

中曹青　山口大会について

ご案内の通り、山口総合保健会館にて十一月十一日午後一時半～四時の予定で「桂歌丸師匠チャリティー寄席」を開催します。

九月末の現在、７００名のお申込を頂いています。満席まで若干空きがあります。参加希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】
山口県曹洞宗青年
大島郡周防大島町
久屋寺（六教区）
電話　　〇八二〇
ファックス〇八二〇